

第5分科会「里山と観光」

“なりわい”の拠点施設「南房総ワクワク村」プロジェクト

日時：2007年4月29日(日) 10:00~16:30

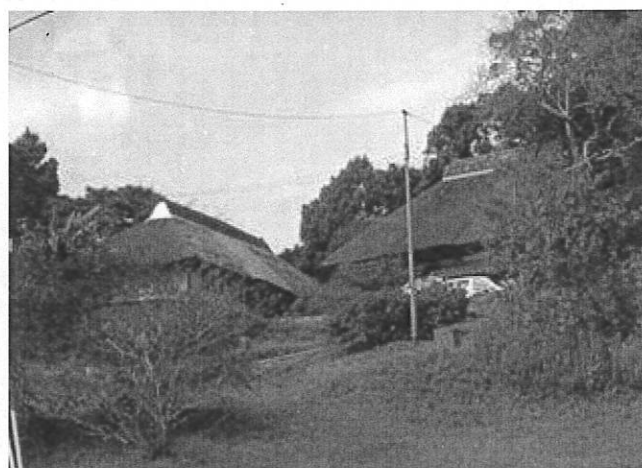
場所：南房総市 茅葺きの古民家「ろくすけ」

参加者：10名

趣旨

里山をキーワードに、どうやったら「なりわい」として成立するのか。

茅葺きの古民家(築170年)を拠点とした「南房総ワクワク村」を実際にプロジェクトとして進めること(行動していくこと)がきっかけとならないか考える



内容

この分科会は、ワークショップとしたので、発表などの機会はなく、参加者が主体となって進めたため、特に無し。

結果

(目的)・思うこと、考えること、話しをすることは誰でもできる。誰が何をどうするかなど…その6W2H、つまりその方法論は無限にある。しかし、行動することこそが今一番必要なことであり、もとめられていることである。

(現状)・地の人(地域の方々)にとってはなりわいの成立、風の人(訪れるの方々)にとっては場作り。しかし、双方が一緒に無理なく続けて行ける行動となることが大切。

(課題)・まずは拠点となる茅葺きの古民家「ろくすけ」とその周辺を整備し、地域を知る事から始める。そして先人の知恵、知識、技術を学ぶ。

作業計画

9月23日 草刈と畑づくり、蔵の整理

10月14日 道の草刈り、いちご苗定植

以下予定

11月18日 ブルーベリー定植、枯葉で焼き芋

12月16日 周辺整備で出た竹でオブジェ(クリスマスと正月用)、忘年会

まとめ

しのごの言わずにまず動き出そう。

Just do it !!

うまくいかなかったらその時また考えよう。

第6分科会 里山と教育・学習

「農業を体験し、食を考え、子らの心を育てる」

日 時：5月6日（日曜日）13：00～16：30

場 所：千葉県立中央博物館「講堂」

参加者：135名

趣 旨

日本は農業国であることを認識をさせ、子ども達が農業体験を継続することで体験が経験に変化する。

食への感謝が自らの経験によって一層深まり、「自然体験はオマケではない」を実感させることを目的としている



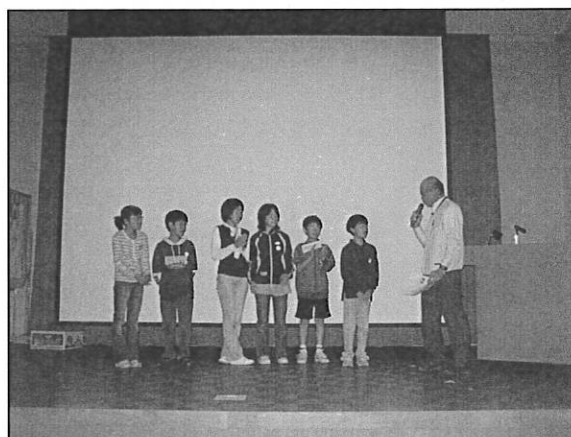
内 容

《総司会 鈴木 敦（NPO 緑のネット千葉）》

1. 基調講演「環境教育における体験の意義と里山」
京都教育大学教授 山下宏文 氏
2. 千葉市立みつわ台北小学校6年生児童による実践報告
3. 「わらべうた」千葉福祉会「たいよう保育園」園児と保育士
4. 意見交換会：
山下宏文（森林文化教育研究会代表幹事）
中村俊彦（千葉県立中央博物館副館長）
鈴木 真（東京都練馬区立中村西小学校教諭）
住本壽司（千葉市立みつわ台北小学校校長）
吉井 勇（千葉市立みつわ台北小学校教諭）
高橋将之（農業経営）
コーディネーター
司会 上善峰男（森林文化教育研究会事務局長）

学校農園では児童が秋から集めた、校庭樹木の落葉で腐葉土をつくり、耕した土に混ぜ下ごしらえをした。

京都教育大学山下教授が、環境教育を進める中で大切なことは、里山と日本人とのかかわり、里山の現状認識、里山の美しさを学ぶことで子ども達の心が育つ事例を話した。



※ 効果としては、農業体験した後で給食の残飯が激減した。